

※ 未提出者への督促後に新たに提出（入力）されたレポートも含めた集計結果です

設問 1（授業科目名・クラス名）

設問 2（科目コード）

設問 3（回答者名）

※ 以下、各選択肢の右に該当クラス数を記す。（全回答数に対する回答率も附記）

A（問 4～13）：授業担当者として教授技法や授業内容等に関し、教育活動を自己点検し、次の①～④のうち該当する丸数字を選んでください。 ①:あてはまる ②:ややあてはまる ③:あまりあてはまらない ④:あてはまらない

設問 4 シラバスに沿って授業を行えた。

①:10 (63%) ②:6 (38%) ③:0 (0%) ④:0 (0%) 未回答:0 (0%)

設問 5 学生の理解度やレベルを踏まえて授業内容を設定・調整した。

①:12 (75%) ②:4 (25%) ③:0 (0%) ④:0 (0%) 未回答:0 (0%)

設問 6 話し方、板書の仕方、機器又は器具の使い方、等が適切だった。

（教授技法の適・不適の観点で柔軟に回答してください。）

①:8 (50%) ②:7 (44%) ③:1 (6%) ④:0 (0%) 未回答:0 (0%)

設問 7 重要ポイントを明示し、分かり易く説明した。

①:9 (56%) ②:7 (44%) ③:0 (0%) ④:0 (0%) 未回答:0 (0%)

設問 8 学習意欲や知的好奇心・関心を掻き立てたり満足させる教え方ができた。

①:5 (31%) ②:9 (56%) ③:2 (13%) ④:0 (0%) 未回答:0 (0%)

設問 9 受講生の信頼を得るような授業態度で授業に臨んだ。

（授業を周到に準備し、休講・遅刻を極力控え、進行を妨げる行為（私語など）に対して毅然として実施した。）

①:10 (63%) ②:5 (31%) ③:1 (6%) ④:0 (0%) 未回答:0 (0%)

設問 10 受講者とのコミュニケーションを図りながら授業を進めた。

（発問への回答を学生に求めた/学生からの質問・発言を促した/学生の理解度を確かめながら進めた

/学生の授業への能動的な参加（アクティブ・ラーニング）を促した 等）

①:5 (31%) ②:9 (56%) ③:2 (13%) ④:0 (0%) 未回答:0 (0%)

設問 11 授業内容に見合った予習・復習或いは発展学習を課した。

①:5 (31%) ②:10 (63%) ③:1 (6%) ④:0 (0%) 未回答:0 (0%)

設問 12 総合的に判断して学生を満足させる授業が行えた。

①:5 (31%) ②:10 (63%) ③:1 (6%) ④:0 (0%) 未回答:0 (0%)

設問 13 シラバスに掲げた当初の授業目標（ねらい）は達成された。

①:3 (19%) ②:13 (81%) ③:0 (0%) ④:0 (0%) 未回答:0 (0%)

B (問 14~18) : FD 活動についてお尋ねします。

設問 14 この授業科目に関してこの 1 年間取り組んだ FD 活動を選んでください。(複数回答可)

- ①他教員の授業参観： 4 (25%)
- ②学内外の FD 講演会等への参加： 16 (100%)
- ③他大学の FD 活動の視察： 1 (6%)
- ④その他： 4 (25%)
 - ・・・「H28 年度国立大学教養教育実施組織会議（高松）第二分科会にて宮崎大学の事例を発表」
 - 「教授法に関する MOOC を受講」2 クラス、「類似科目を教えている教員との連携」
- 未回答： 0 (0%)

設問 15 今後取り組もうと考えている FD 活動を選んでください。(複数回答可)

- ①他教員の授業参観： 6 (38%)
- ②学内外の FD 講演会等への参加： 16 (100%)
- ③他大学の FD 活動の視察： 0 (0%)
- ④その他： 0 (0%)
- 未回答： 0 (0%)

設問 16 昨年度も同一科目を担当した方は、前年度の授業評価に基づき、改善した点を書いてください。

該当するクラスのうち、 回答：13 クラス（順不同）

[1] 授業用の配布物の内容を充実させると共に、不足分については新しく作成し配した。数回ではあるが、授業時間前に教室に出向き学生の授業に関する意見を聞いた。演習用の問題を授業開始時点で配布することにより、当日の授業のキーとなる点を把握させた。・・・2 クラス

[2] 授業内容の定着を図るために、授業の後半 20 分程度で毎回講義内容に関する演習問題を解かせる時間をとった。・・・2 クラス

[3] 授業への学生の理解を促すため、毎時間テキストに沿った問題を行っているが、今年度はテキストの問題から少し変更した問題を作成して実施した。・・・2 クラス

[4] 昨年度以前からグループワークを基本としたアクティブラーニング方式で講義を行っているが、講義で取り扱う内容を絞りきれいになかったため、学生がグループワークの内容をきちんと消化出来ていないように思われた。よって今年はさらに能動的な学習を促すべく、内容を絞って学生が十分にグループ・ワークできる時間を確保した。それに合わせて講義資料を改善し、工学部のキャリア支援システムを利用して講義毎にアップして学生に公開し、予習・復習を促した。・・・2 クラス

[5] 昨年と同様、チーム基盤型学習を実施した。個人およびチームテストに関する回答の解説を、昨年よりは時間をとって行った。

[6] 単元ごとの理解促進のために「英文課題」を出した。

[7] 科目担当者の変更に伴い、講義の内容、構成を全面的に刷新した。本科目は、看護職として身につけるべき「生命現象の正常と異常」について、様々な研究のエビデンスや事例、症例などの紹介を通じて、その理解の一助とすることを目的とする。専門基礎科目（解剖生理学や生化学、栄養学、免疫学、微生物学、薬理学、病態学など）は、看護を実践する上で、生命活動や病気を理解するための基盤となる必須の学問であるが、膨大な項目の単なる暗記に陥りがちである。その学習の意義を認識し、学習の意欲を向上させることを目指し、看護学科教員が、それぞれの専門領域から、学部 1 年生が興味を持つ内容を提示し、そ

れを糸口として、専門的な知識や用語を正しく理解し、身についた知識として活用できるようになることの重要性を伝える。10名の看護学科教員によるオムニバスの構成で実施することで、学生に幅広い話題を提供可能とする。

[8] 授業の2回目から計11回の小テストを行うとともに、中間試験、期末試験のそれぞれの前の週に、復習の時間を設けて、学生が理解度を確認できるようにした。授業（月曜1コマ目）と同じ日の4コマ目に「補習・予習」を計14回行い、その参加人数は315名（平均22名）であった。補習に5回以上参加した学生の成績は「秀13名、優8名、良5名、可2名」であった。

[9] 2年前に担当した時には、教員の処理能力を超えた分量のレポート（演習問題）を頻繁に課したため、提出されたレポートの点検または採点を教員がこなさきれず、返却が遅れた。今回は、演習問題の分量を、現状で教育に割ける時間を考慮し、教員の処理能力の範囲内に抑え（減らし）た。その結果、レポートの返却は遅れずに済んだ。しかしながら、中間試験と期末試験の出題量は2年前と同程度のままだった（多かった）ため、採点が遅くなり、答案返却が著しく遅れて学生の期待を大きく裏切ってしまった。今後改善すべき点として、試験の出題量も極力減らし、「量よりも質」を効果的に問う形式を模索する必要あり・・・実際に処理できる量を充分考慮すべし！

設問17 自分の授業の評価できる点や反省すべき点、或いは、このFD活動レポートに関して特記すべき点があれば書いてください。

回答： 14クラス（順不同）

[1] 演習用の問題を事前に配布することにより、演習問題を授業を聞かないで解いている学生が増えてきた。問題の配布時間を再検討する必要がある。配布物に図などを加えることで学生の理解度を助ける取り組みをする。・・・2クラス

[2] 毎回授業の最後に演習問題を解かせる時間をとったが、時間の都合上、問題を解くのに十分な時間を取れたとは言えない。どのように時間を確保するかが今後の問題である。・・・2クラス

[3] 授業では、話を長くすると学生の集中力および理解が続かない。今後さらにできるだけ問題を考えさせる過程を多くして、学生の興味および集中力を維持させるようにしたい。・・・2クラス

[4] アクティブラーニングを導入し初めて4年目になり、年々学生が主体的に講義に参加してくれるようになり、受講態度はとても良い。（居眠りする学生や内職する学生の数が極僅か。）授業アンケート結果も年々改善しているので、今後も継続していきたい。しかし、高校時に未履修の学生に対するフォローは十分とはいえず、e-Learningによるリメディアル授業を準備する必要があると感じている。シラバスの見直しを含めた、十分な事前準備が必要であるが、なかなかその時間の確保が難しい。・・・2クラス

[5] 講義を行った次週には、その内容の小テストを行い、自宅での復習を促しているが、なかなか点数にその効果が現れない。根本的に、学習意欲のわく授業内容に変更する必要があると感じている。

[6] 映像「月面で隼の羽とハンマーを落下させた場合」「月と地球の引力の関係」「翼の揚力、風洞実験」「ピトー管が故障したときの旅客機」などを、数回、授業開始時に見せることによって、知的好奇心が増すように工夫した。

[7] もう少し学習意欲を掻き立てる工夫が必要と感じた。

[8] 15回の講義のうち、どうしても前半に時間がかかり過ぎて後半が急ぎ足になってしまった。そのために「英文課題」を説明する時間が足りなくなった。

[9] （評価しうる点）

10名の看護学科教員によるオムニバス構成で実施したことで、学生に幅広い話題を提供できた。また、話題提供者が変わることで新鮮さを継続できたと感じている。学生のアンケート結果を見ても、当初の目標は達成したと評価しうる。多くの教員が、より早期に学生と講義で接触する機会を持つことができたのも、メリットの一つであった。

（反省すべき点・留意点）

明らかな反省点は見当たらなかった。留意点としては、オムニバスの全体の構成、バランスに関しての調整をしないと、内

容が偏ってしまう可能性があるという点である。今年度の実施に際しては、オムニバス講義の担当者間で、情報を共有し、テーマをオープンにすることで相互に講義内容の調整を行った。

[10] 中間試験で出来の悪かった分野については、期末試験で再度類題を問うたら並み程度以上の出来に改善されたので、中間試験範囲の復習と強化に対する教育方針（試験問題と類題のレポートを課し、期末試験の出題範囲にも含めると宣言したこと）は悪くなかったものと思われる。しかしながら、中間試験以降の授業内容のうち、図形（直線）を1次変換すること、関数のグラフを描くこと（増減、凹凸、漸近線まで）の2項目については、授業における演習不足が祟り、出来が酷かった。次年度ではこの点を改善すべく、授業構成・授業方法を検討する必要あり。一方、2年前に担当した内容からの大きな変更に伴う授業資料の準備が間に合わず、授業開始直前までかかってしまい、結果的に度々遅刻してしまったのが、見過ごせぬ問題点である。ただし、最近、学内業務が過多になってきたため、なかなか授業準備に時間が割けないのが実情である。今後の最優先課題は「授業準備をいかに省力化かつ効果大にするか」と云えよう。

設問 18 FD 活動レポートに関して特記すべき報告があれば添付ファイルで提出してください。

提出ファイル： なし

C (問 19~21)：中期目標・中期計画のうち「コミュニケーション能力の育成」についてお尋ねします。

設問 19 授業に「コミュニケーション能力の育成」を考慮した内容が含まれていますか？

①はい： 6 (38%) ②いいえ： 10 (63%) 未回答： 0 (0%)

問 19 で「はい」の方は問 20、21 にお答えください。

設問 20 下記のどの点を重視しましたか？（複数回答可）

①聞いて理解する： 3 (19%)
②読んで理解する： 2 (13%)
③自分の考えをまとめて話す： 4 (25%)
④自分の考えを文章にまとめる： 2 (13%)
⑤討論する： 4 (25%)
⑥皆の前でプレゼンテーションする： 1 (6%)
⑦その他： 0 (0%)
未回答： 10 (63%)

設問 21 「コミュニケーション能力の育成」に関して具体的な取り組みがありましたら、記述してください。

回答： 6 クラス（順不同）

[1] 演習時間を設け、解答方法について意見交換をしたら、教えあっている学生が増えてきた。・・・2 クラス

[2] グループワークを基本としたアクティブラーニングを行っている。発展的な問題にまずグループで取り組み、その後チームをシャッフルして、各学生は別チームに自チームの解法を説明するとともに他チームの解法を聴く(ワールドカフェ)を行っている。よって、各学生

が次グループの代表として、「聴く・話す・討論する」を行っている。・・・2 クラス

[3] 少し難しい英文を読ませた。

[4] 15 回中 1 回のみではあるが、「コミュニケーション能力の育成」を目指して以下のような取り組みを行った。第 15 回目の薬害についての講義（柳田担当）は、6 名ずつのグループに分けてアクティブラーニング形式で実施した。具体的な実施内容は下記の通りである。

1. 薬害についてのイメージをグループ内で討論
2. グループでまとめた意見の発表
3. 薬害に関するビデオ（厚生労働省作成）の鑑賞
4. ビデオ鑑賞によって得られた知識と以前のイメージの違い、疑問点などについてグループで討論
5. 4 について、グループごとに発表、討論
6. さらに、詳しい内容をスライドで講義
7. 感想の提出

D (問 22～25) : 中期目標・中期計画のうち「地域を教材とする基礎教育/共通教育プログラム」についてお尋ねします。

設問 22 授業に「地域（宮崎）を教材とする」内容が含まれていますか？

①はい： 2 (13%) ②いいえ： 13 (81%) 未回答： 1 (6%)

問 22 で「はい」の方は問 23～25 にお答えください。

設問 23 その内容を授業に取り上げるおよその回数を選んでください。

①1～5回： 2 (13%) ②6～10回： 0 (0%) ③11～15回： 0 (0%)

未回答： 14 (88%)

設問 24 「地域」のどのような分野を取り上げていますか？（複数回答可）

①歴史・文化： 1 (6%) ②政治・経済・産業： 0 (0%) ③自然環境・フィールド体験： 1 (6%)

④その他： 1 (6%)・・・「地域医療の取り組みの紹介」 未回答： 14 (88%)

設問 25 「地域を教材とした基礎教育/共通教育プログラム」に該当する特色ある活動がありましたら、記述してください。

回答： 0 クラス